

2023年(令和5年)12月19日(火)

# 再開発権利変換を認可

## 三島駅南口年度内工事開始へ

三島駅南口東街区の再開発計画について、着工前の最後のステップである権利変換計画を認可し、18日、認可書の交付式が三島市役所で行われた。権利変換は、現在の土地所有権などを再開発後の建物の権利に置き換えるもので期日は22日。市を含む27の地権者は2024年1月下旬までに建物を明け渡し、並行して建物の解体工事も始まる。今年度内に建設工事が始まり、27年度に再開発事業が完了する予定だ。

【石川宏】

総事業費は約261億円。市営平面駐車場などだった約1・3畝の土地に、24階建て高層マンションやホテル、商業施設など6棟が建設される。大部分は国鉄清算事業団から市が払い下げを受けた土地で、再開発の検討

は1987年から始まった。再開発事業者が2010年度に一度は決まったものの東日本大震災の影響で撤退し、頓挫した。17年度に改めて事業者を公募。ミサワホームを代表企業とする共同企業が最優秀事業者に選

定され、事業が再び動き出した。

一方、再開発事業に対しては、高層マンション建設に伴う地下水

や眺望への影響を懸念し事業見直しを求める声もあった。豊岡武士市長は18年夏に「中止するなら私を殺してか



①権利変換計画の認可書を豊岡武士市長（右端）から受け取る再開発組合の井上裕幸理事長＝三島市役所で  
②三島駅南口東街区再開発の完成予想図＝三島市提供



らにして」と発言するなど一貫して再開発事業を推進。18年、22年の市長選の争点にもなったが、いずれも豊岡市長が勝利し、事業は加速した。

18日の交付式で豊岡市長が再開発組合の井上裕幸理事長に認可書を手渡した。豊岡

市長は「いよいよスタート地点に立った。事業には市民はじめ期待している人がたくさんいる」と述べた。また、井上理事長は「新たに整備される施設が三島駅を利用する全ての人に喜ばれるものになってほしい」と述べた。